

# 大幅下落スタートとなった日本株

寄稿 / 仙石誠（東海東京調査センター マーケットアナリスト）

## 2016年は大幅下落スタート

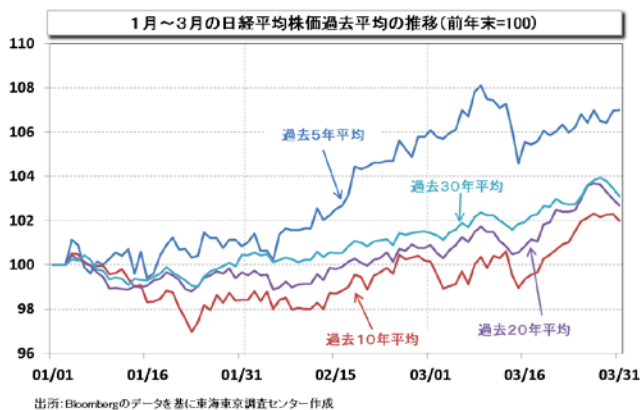
明けましておめでとうございます。今年も皆様の力になれるよう執筆して参りますので「本音のマーケットコラム」をよろしくお願い致します。

2016年の日本株は、正月気分を一蹴する大幅下落でのスタートとなった。中国株の急落や為替のドル安円高に加えて、地政学的リスクまで高まり、日経平均株価は17000円台半ばにまで下落。日経平均株価の年初からの5日続落は、1950年の算出が始まって以来、初めてのことである。2016年の干支は申《さる》だが、申年の相場の格言は「騒がし」。年間で株価が上下し、激しい動きをするという意味であるが、年初は悪い方に騒がしくなっているとさえ言えそうだ。大幅下落により、筆者が想定していた今年の安値(18,500円と予想)を早くも大きく割り込んでしまった。しかし、先行きに対して弱気な見方はしていない。その理由は、株価は年初に株価が下がり易い傾向があることだ。図表1には1月～3月の日経平均株価の過去5年、10年、20年、30年の推移の平均を載せている。いずれの期間でも1月前半は前年末日で下落している。最近の2014年や2015年も年初は下落してスタートした。過去平均の推移では、1月後半から2月前半に反転し、3月後半に向けて上昇基調となる傾向がみられる。そのあたりが狙い目と言えるかもしれない。

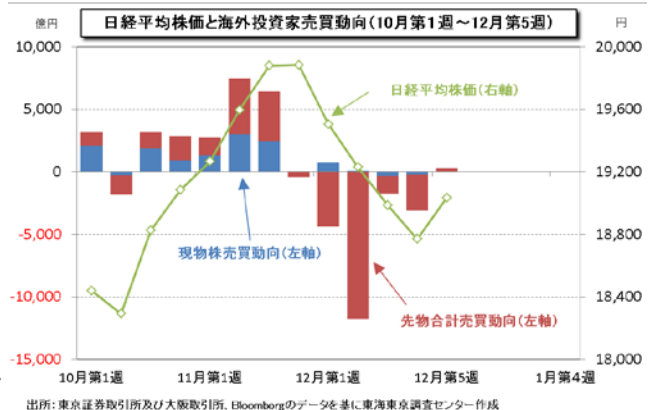
## 足元の海外投資家は先物による売り越しが中心

図表2は足元の日経平均株価と海外投資家売買動向である。11月末から海外投資家が売り越しに転じていることが、株価の下落に影響を与えている可能性がある。ただし、こちらの図表では海外投資家売買動向を現物株と先物で分けて表示しているが、赤い棒グラフの先物による売り越しが目立っている点に注目していただきたい。海外投資家は12月に先物合計で2兆200億円売り越ししており、これは2000年以降の月次ベースで過去最高水準である。日本株の下落は、ヘッジファンドや短期で利益を稼ごうとする海外投資家の先物売りによってもたらされたものである可能性が高い。売りポジションの一部は今後買い戻されることが想定され、日本株が反発に転じる可能性もあるだろう。今後は申年らしく、良い方に騒がしくなることに期待したい。(仙石 誠)

《図表1:1月～3月の日経平均株価過去平均の推移》



《図表2: 日経平均株価と海外投資家売買動向》



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。情報の正確性には万全を期しておりますが、その正確性・完全性・将来の運用成果の予測等を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、情報提供会社等および当社は一切の責任を負いません。資産運用の際にはお客様の責任において最終的にご判断ください。この資料は、第三者への提供を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用等させることはできません。

金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料等（国内株式取引の場合は約定代金に対して上限 1.242%（税込）（ただし、最低手数料 2,700 円（税込））の委託手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された販売手数料及び信託報酬等の諸経費、等）をご負担いただく場合があります。金融商品等には株式相場、金利水準の変動等による「市場リスク」、金融商品等の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合の「信用リスク」、外国証券である場合には、「為替変動リスク」等により損失が生じるおそれがあります。さらに、新株予約権等が付された金融商品等については、これらの「権利を行使できる期間の制限」等があります。なお、信用取引又はデリバティブ取引を行う場合には、その損失の額がお客様より差入れいただいた委託保証金又は証拠金の額を上回るおそれがあります。手数料等およびリスクは、金融商品等ごとに異なりますので、契約締結前交付書面や上場有価証券等書面または目論見書等をよくお読みください。

#### 東海東京証券の概要

- 商号等 : 東海東京証券株式会社 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第 140 号
- 加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会